

棚尾地区まちづくり事業
平成 24 年 9 月 26 日（水）19 時～
棚尾公民館 3 階

第 15 回 棚尾の歴史を語る会 次第

進行（小笠原幸雄）

- 1 前回までのテーマに関する参考意見など
北棚尾村、清水光太郎、中山の分村、若宮社など

- 2 テーマ 28 「棚尾の地蔵尊」
 - (1) 説明（磯貝国雄）

 - (2) 出席者による補足説明、感想など

- 3 テーマ 29 「敬老会」
 - (1) 説明（磯貝国雄）

 - (2) 出席者による補足説明、感想など

- 4 連絡事項・情報交換など

- 5 次回日程
 - 第 16 回 10 月 25 日（木曜日） 午後 7 時から
「大相撲清見潟」「土人形」
 - 第 17 回 11 月 21 日（水曜日） 午後 7 時から
「はまぐり市」「棚尾地区内の区画整理事業」

「棚尾の地蔵尊」

1 要旨

お地蔵さんは、私たちの悩みを救い、亡くなった人の苦しみを取り除き助けて下さる仏様である。棚尾には昔から多くのお地蔵さんがあり、今も私達をやさしく守って下さっている。地蔵祭や日常の世話は昔の字組（あざぐみ）奉賛会や町内会などで世話をされていて、今年も源氏、西山、汐田、堀切、中道、森の六地区で地蔵祭が執り行われた。又、個人でお祀りされている方もある。縁日は8月24日であるので、其の前後に地蔵祭が行われる。

2 地蔵信仰

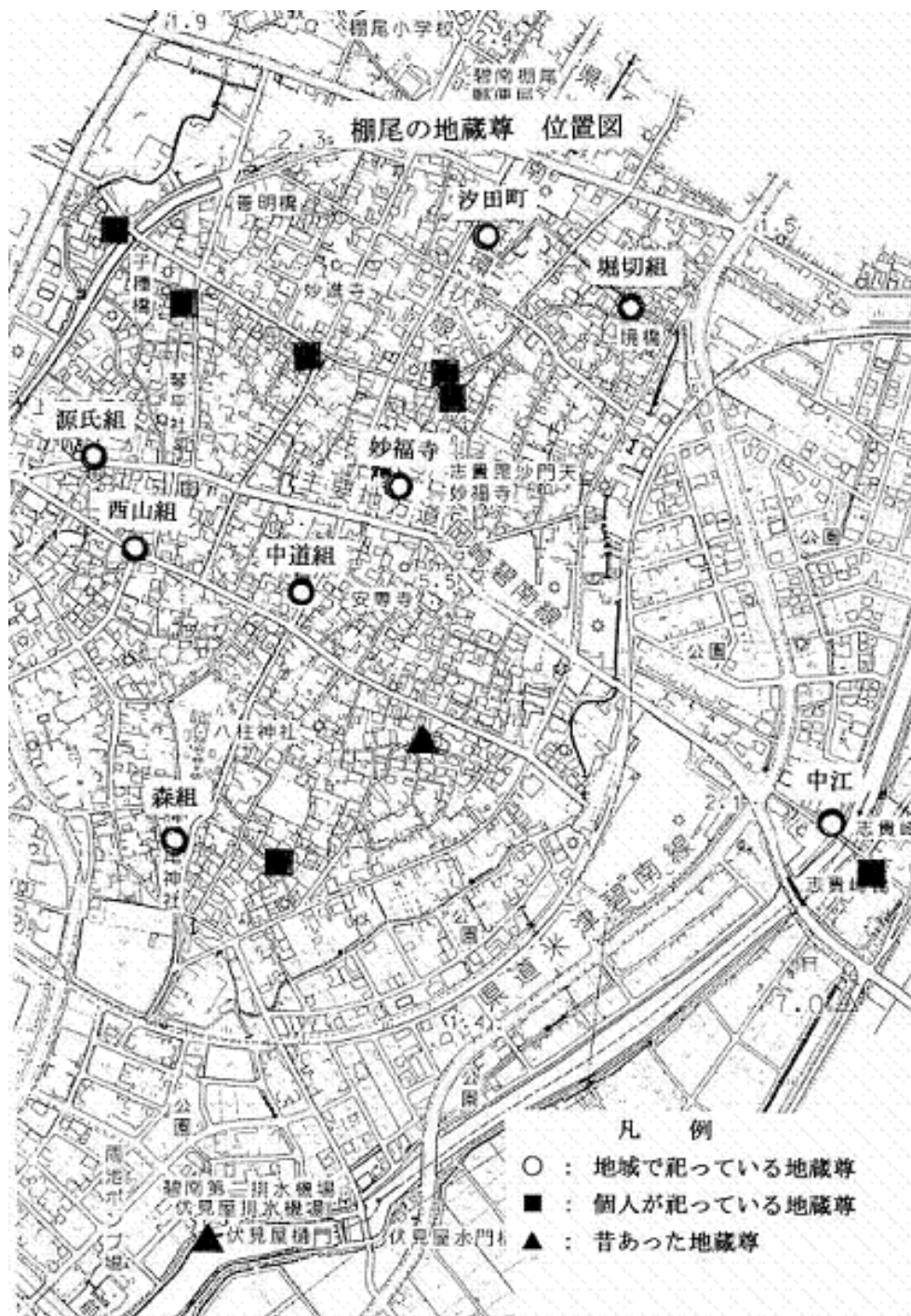
地蔵菩薩は、お釈迦さまが亡くなられてから五十六億七千万年の後、弥勒菩薩が次の仏となるまでの間、この世にあって多くの人々の苦しみや悩みを救う菩薩である。地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上という六道、つまり行きとし生けるものの苦しみ悩む六つの生死の繰り返しの世界、六道輪廻の苦しみを和らげ、救いとるのが地蔵菩薩である。

尊名の原語はクシティ・ガルバ。大地が内蔵している力を象徴し、全てのものを育て、善良なやさしい心根を大きく伸ばす意味合いを表している。地蔵菩薩はあらゆるところに身を変えて表れる。いつでも、どこでも、私たちの身近にあって、救いとしてやまない決意と働きを示されている。

お地蔵さまの異名菩薩の呼び名には、延命地蔵、子育て地蔵、身代わり地蔵、腹帯地蔵、水子地蔵、とげぬき地蔵、交通安全地蔵などがある。

地蔵菩薩の真言は「オン カ カ カ ビザンマエイ ソワカ」である。

3 位置図



4 妙福寺の地蔵尊

妙福寺には数多くのお地蔵さんが祀られている。

(1) 踏出地蔵（碧南市指定文化財）

木造 地蔵菩薩半跏（はんか）像 一軀

指定年月日 昭和50年10月15日

形状・高さ 64cm 寄木造り

所在地 妙福寺本堂 本尊に向って左の間

解説 通称「踏み出し地蔵」という。右手に錫杖、左手に宝珠を持つ延命地蔵である。顔は円満な相好で鎌倉期の手法であるが、江戸中期の作であろう。衣の襞は深く、胡粉研出、彩色が施してある。火焰二重円光の光背の箔と台座にも後補がみられる。





(2) 地蔵堂

境内の西側に並んでいる内の一堂が地蔵堂である。8月19日午前8時過ぎ、御供物が供えられる中、住職による施餓鬼法要が行われた。



(3) まわり地蔵

弘法堂の北に、直径3m弱の石仏塔があり、妙福寺では「まわり地蔵」と呼ばれている。石仏が4段に整列し安置されていて、帽子やよだれ掛けを着けている石像も多く、どのお顔も柔和である。中央の一番高いところは1体、2段目は7体、3段目16体、一番下は26体の合計50体である。中央は観音像であるが、その他は殆ど地蔵菩薩と思われる。



(4) 抱き地蔵尊

弘法堂に向って左前の小堂が抱き地蔵尊堂である。願い事や悩み事のある人がお参りをした後、木柵の中に安置されている石の地蔵尊を、柵の外側から手で持ち上げ、持ち上がればその願い事がかなうと言われる。

妙福寺では、多くの参詣者が訪れる人気のパワースポットである。この地蔵尊によって、心癒され、元気をもらい運が開けたという人も多く、昔から大切にされている。

弘法堂前 右が身代わり地蔵尊 左の木柵の有る小堂が抱き地蔵尊



(5) 身代わり地蔵

以前は柵尾本町3丁目にあり、中久根組が祀っていたものである。今年も、榊原與吉さんの施主で午前8時から妙福寺住職による読経が行われ、一般の参詣者もお参りされていた。

(6) 石地蔵2尊

弘法堂の北面に接して2体の地蔵尊がある。右が旧日影組の地蔵尊で、彩色されている。元の位置は源氏町3丁目で、昔、井上醸造の敷地の道路に面した所にあったものである。

左の少し大きい地蔵尊は旧畑中組が祀っていたものである。「道しるべ」になっていて、石面中央に地蔵尊を彫り、右側に「右にしを道をかざき道」、左上部に比較的大きな手が右を指してきざまれて居り、その下部にやや小さく、「左尾洲かめざき道」と、彫られている。元の位置は志貴町3丁目の折戸の坂にあり、平成7年9月14日に移設された。



(7) 平和地蔵尊

納骨塔の左前に立つ

5 源氏組

(1) 地蔵尊

源氏町4丁目 石川薬局さん東で亀島乳母車屋さん前に石造の地蔵がある。地蔵尊は高さ126cm、幅46cmの自然石に立ったお地蔵さんが彫られている。この石仏は古い「道しるべ」として、昔からよく知られており、棚尾の貴重なランドマークの一つである。

碧南市文化協会の会報「碧南文化 第65号昭和(38年3月号)」に道しるべと題して光輪寺前住職の高木二九師が寄稿している文を掲載する。

「子供等は字源氏の、乳母車屋の前に佇み、目の前の石仏をのぞきました。この仏はお地蔵さんでした。「右 てんのふみち 中央地蔵 左 大はま道」と彫られています。てんのふはもちろん天王であり、右へ道を行きますと、旧源氏神明跡の西に出て、もっと進めば、昔の子種の池のあったあたりを通り、天王の方へ出られたものです。この石地蔵さまの道しるべは、今より凡そ百五十年ばかり以前、今の長田豊義さんの先祖が建てられたものと伝えられています。この裏面を見ることが出来ませんでした。源氏組の世話方小高さんの話によりますと、その裏に『長田家末孫之建』とあるそうです。」

尚、今回石仏裏面の写真を撮っていただいたところ『長田末孫』と刻まれていて、記事のとおりであることが確認された。

(2) 管理

源氏組秋葉山奉賛会の方が地蔵祭と秋葉社祭礼を行われる。

(3) 地蔵祭

源氏組の地蔵祭は昔から8月16日に決めて行われている。今年も同日朝8時から地蔵尊の前に15人ほどの人が参拝され、妙福寺住職の読経により行われた。この日は、地蔵尊の前に、白布を敷いたお供え台が設置され、ろうそく、餅、果物が供えられ、法名の書き入れられている源氏組の掛け軸と皆さんからの御供物が並べられる。又、「南無地蔵大菩薩」と書かれた赤と白ののぼり7枚が1本のロープで上から吊るされていた。

(4) 秋葉社祭礼など

引き続き、9時からフーズアイランド前の交差点にある秋葉社で、八柱神社の村松政広宮司によって神事が執り行われた。

棚尾の人にとって、毎年盆踊りが終わると次の日が源氏のお祭で堀川に浮かぶ金魚

花火を見たという人は多い。まさに地蔵盆にふさわしい行事であった。いつごろから始まったかお聞きした、ところ戦前の昭和14年頃は花火や大名行列をやっていたそうである。昭和20年代にはのど自慢大会があったことを覚えている。



6 西山組

(1) 地蔵尊

源氏町5丁目、みのりやさんの東に防火用の貯水槽があり、その東隅に西山組の地蔵堂がある。地蔵尊は高さ1.07m 幅0.40m座像である。

寄付者 地蔵：中山生田弥惣吉、堂：永坂源治郎 昭和15年11月と表示されている。お堂の横には 永坂源治郎 寄贈 貯蓄額面百五十円昭和15年11月の石柱が立っている。又、お堂正面で上の横額には「安産地蔵」と彫られていて、この地蔵尊が安産をお願いしたお地蔵さんであることが分かる。

(2) 管理

お祭と日常の世話は西山組共同墓地管理会がされており、今は杉浦発雄氏と澤田弘基氏が役員を務めてみえる。役員の任期は5年間で今年は3年目だそうである。

(3) 地蔵祭

8月19日（日）、お堂の前にお坊さんが座ることの出来る台と日除けのビニールシートが架けられ、「奉納南無地蔵大菩薩」と書かれたのぼりが2本立てられる。午前9時、妙福寺住職の読経が始まり、15人程の人がお参りされる。お堂の隣にはお供え用の台が据えられ、御供物と西山組物故者の掛け軸も出される。お経が終わるとお参りの人には袋に入った菓子が振舞われる。

ここでの読経が終わると続いて、弥生町5丁目の西山共同墓地でも読経があげられる。更に午後からは安専寺で物故者のお勤めをされるそうである。尚、この法要のお寺は棚尾のお寺を毎年順番で使用されるそうである。

(4) 前の位置など

地蔵堂は以前、現在地より少し東で、永坂友明さんと古久根照明さんとの間にあったそうである。この道路は昭和10年代に開け、貯水槽も昭和16年に設置されているので、一連の整備に合わせ移転したものと思われる。

(5) 地蔵祭の古い記録

棚尾役場の古文書に124年前の明治21年（1888）に西山組地蔵祭りの記録があり、長く続いていることが分かる。

「地蔵祭付餓鬼付飾物奉納願」

字西山 碧海郡棚尾村

地蔵祭 献燈

右地蔵祭ニ付今三十一日 当村字西山扣三番宅地借受 同地内に於テ餓鬼付飾

物奉納仕度候付御許可被成下度 別紙目録相添此段奉願候也 但シ雨天日送り
明治二十一年八月三十一日 右信徒総代 杉浦勘治郎



7 汐田町町内会

(1) 地蔵尊

地蔵堂は汐田町5丁目行者さん敷地内にある。高サ60cm幅25cm厚さ18cmの自然石に両手で宝珠を持たれたお地蔵さんが彫ってある。彩色されていて、これは今年亡くなられた土人形制作者の高山八郎さんが着けられたものである。

(2) 管理

管理は汐田町町内会が行っている。棚尾地区では昭和63年に旧字組から町内会への組織改正があったが、汐田町は旧字組の区域と新町内会の区域が殆ど同じだったので、この汐田町町内会だけが、以前の字汐田組の組織をそのまま引き継いでいる。町内会になってからは6人の部長の内1人が行者さん係を担当し、日常のお花立てや賽銭の集金などを行っている。行者さんでは、1年間に3回大きな行事がある。5月の行者祭りと物故者法要、8月の地蔵祭り、それと正月である。この時は町内会長と部長全員で執り行う。

(3) 地蔵祭

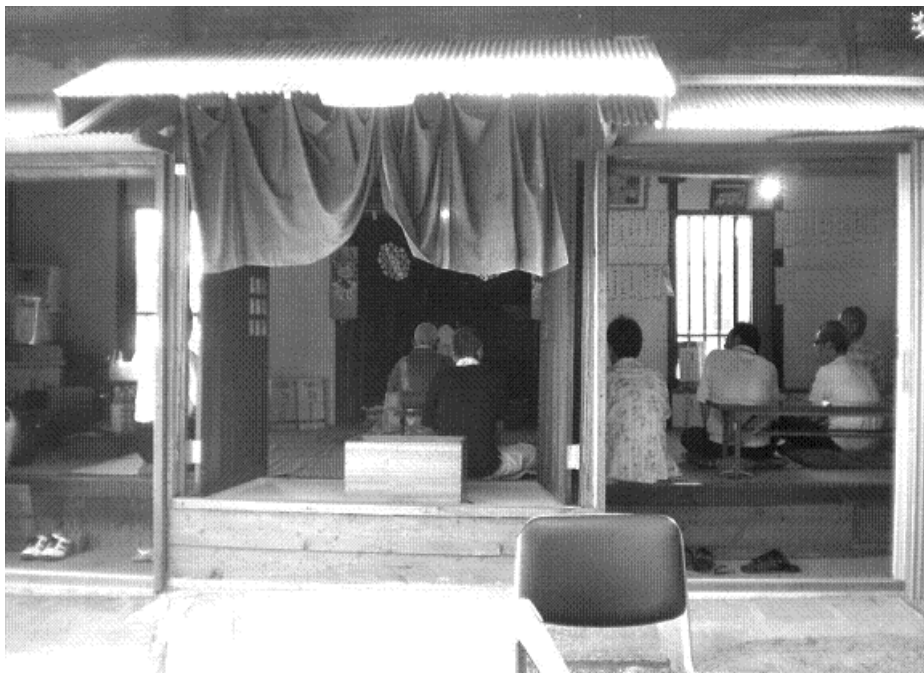
地蔵祭の日は、お地蔵さんを地蔵堂から行者堂に移す。今年は8月26日（日曜日）午前9時から執り行われた。中央の台の上にお地蔵さんを祀る。祭礼用の「南無子安地蔵菩薩」と書かれた提灯が吊るされ、境内には赤色ののぼりが3本立てられる。のぼりには「南無安産地蔵菩薩」と書いてある。従って、このお地蔵さんは安産と子育ての願いが込められたお地蔵さんであることが分かる。

左右にはお供物が並べられる。法要の導師は汐田町の加藤順教氏で、浄土真宗による読経である。参拝者には、11時まで今年も焼き団子とお茶が振舞われた。その後、町内会全世帯と御供物のお供え者に、御供物のお下がりが配布され汐田の地蔵祭は終わる。

(4) 元の位置など

この地蔵堂の元の位置は、ここから50メートルほど南の交差点内で斎藤隆幸さんの角にあったそうである。昭和三十年代中頃までは道路でお祭をしていたが、車の通りが増え、塀が倒れたりして危険になり、お堂ごと6～7人の人が現在の位置へ運ばれたそうである。更に、其の前の場所をお聞きしたら、そこから少し東で汐田町5丁目と志貴町3丁目の境の道路沿いにあったと聞いたことがあるということだった。確かに汐田町のこの辺りの道路は大正から昭和にかけて、棚尾の市街地が広がっていく中で新設されているので、そうした時期に移動或いは建てられたと思

われる。



8 堀切組

(1) 地蔵尊

堀切組の地蔵堂は、志貴町4丁目で平七町との境を流れる水路の上にある。水路の中にコンクリート杭を打ち、鉄筋コンクリートで基礎を作り、其の上に木造のお堂が建っている。小笠原クリーニング店の前である。この道路は古く隣村との境界にあり、昔から棚尾の重要な場所である。

地蔵尊は高サ1.4m 幅0.6m 厚さ0.4mの自然石に彫ってある。石仏をよく見ると、石像の左上面に「右かめざき 左をかざき」と彫ってあり、古くから村境の大切な「道しるべ」であったことが分かる。

地蔵尊は錫杖を持つ立像である。子供を抱いているのと足元にも子供がいるので子安地蔵であることが分かる。地蔵堂の北隣に住んでみえ、今年亡くなられた土人形作者の高山八郎さんが彩色されていて、まだ新しくきれいである。提灯には「南無地蔵大菩薩 堀切組 昭和四十四年八月」と書かれている。

(2) 管理

地蔵尊の管理は堀切組奉賛会で、地蔵祭はその年の志貴町3, 5, 6部の部長さんが執り行っている。日常の花立て、お水・ご飯のお供えなどの世話は小笠原クリーニング店さんが面倒をみてみえる。

(3) 地蔵祭

8月19日(日曜日)役員さんは午前9時から準備される。地蔵祭は午後1時45分妙福寺住職による読経で始まった。お堂の上には赤、白の旗が立てられている。御供物台にはお供物が並ぶ、以前のお供えは菓子、米、果物、酒が多かったが、今はお供え料が多くなり、又、隣接する平七地区の人からの御供物もあるそうである。

参拝者は子供連れの若い人達も多い。堀切は古い世帯が多いので続いている、今は少子化の影響で少し寂しくなったと言ってみえたが、ざっと数えても総数50人くらいで大変賑やかである。

読経が終わるとお堂の横で、役員さんが米粉の団子や赤飯のおにぎり、菓子、棒ジュースなどを振舞われる。昔は菓子をもらうのが嬉しかったと参拝者の方が言ってみえた。午後2時15分に終わる。以前は宿の家で煮炊きし、盛大に行われていたそうである。又、堀切の読経が終わると、次に隣の平七町2丁目稲生社境内にある平七西組のお地蔵祭が始まるので、子ども達は走って行き、両方をお参りする。

(4) 位置の移動など

以前のお堂は、現在地のすぐ西南、小笠原孝司さんの角にあったが、小笠原仏壇店（現在の明日香庵）の故小笠原忠雄さんが建設費全額を私費にて、昭和三十年代中頃に現在地へ建てられた。その後、お堂も年数が経ち傷んできたので、同店の後継者が住居を転居される時、基礎はそのまま使って、再度建替えられたものである。



9 中道組

(1) 地蔵尊

中道組の地蔵堂は棚尾本町1丁目で、元の小判天から光輪寺へ向う道路の西側にある。立派な屋根の建物の中には、仏様が3体並んでいる。中央に石造の坐像で光背を背負った地蔵尊が安置され、右脇は少し小さな石造立像の地蔵尊で、抱き地蔵さんだそうである。左脇は木造坐像の弘法さんである。

(2) 管理

中道組奉賛会が管理し、組員の人数の多寡により、東組（3年間）と西組（2年間）が交代で当番を務めている。お堂の建っている敷地も奉賛会の所有地だそうである。

(3) 地蔵祭

8月19日（日曜日）午前9時30分妙福寺住職が到着され、住職はお堂の中へ入られるが、二人は入れないので副住職は外で読経をされる。地蔵尊の前の花瓶には鶏頭の花が生けられ、赤飯と餅が供えられる。参拝者は日差しをよけるため、道路の反対側からお参りする。女性が多く話に花が咲き、賑やかである。子供や大人への接待も行われる。

(4) お堂の位置の移動など

現在のお堂は、3番目に移動した位置である。2番目は現在地の向かい側で、昔の森田花屋さんの入り口にあった。斎藤照彦氏にお聞きしたところ、昭和38年8月27日に移転し、建物はそのまま使ったので、前の所からゴロゴロ引いて現在地へ移設したそうである。

更にその前の最初の位置は、榊原理美容室の東の道を北に入り、西側の2軒目と3軒目の間にあったそうである。

次のエピソードをお聞きした。最初のお地蔵さんの持主が岡崎へ引っ越されたが、夢をみて地蔵尊を残してきたことが悔やまれ、中道組へ返還の依頼があった。しかし、今では組の人を守って下さる大切なお地蔵さんであると言って返さなかった。又、このお地蔵さんはお堂に入らなかったのも、弘法さんのお堂へ入れてあげたということである。今回、真偽を確かめるのは出来なかったが、充分あり得る話である。

(5) 弘法祭

堂内にある弘法さんは、別の日にちで、弘法さんの命日である旧暦の3月21日

にお祭があるそうである。



10 森組

(1) 地蔵尊

森組の地蔵堂は弥生町5丁目で棚尾神社境内の南隅にある。地蔵尊は石造り立像で高サ65cm幅25cmである。左脇に瓦の材質製の観音像が安置されているが、近年置かれたものらしく、現役員さんの中で詳細を知る人はなかった。

(2) 管理

昭和63年に字から町内会へ移行した時から、旧字森組の人達で「森組地蔵尊奉賛会」を組織された。現在の会員数は59名、役員は2年交代である。現在の会長は石川律雄氏で、日常の清掃などは杉浦増三(ますみ)氏が熱心に奉仕されている。

(3) 地蔵祭

8月19日(日)、お堂の前にお寺さんが座られる台と御供物用の台が据えられ、日よけのビニールシートが掛けられる。お堂の左右に「南無地蔵大菩薩」と書かれた少し大きなのぼりが立てられ、祭礼用の「南無地蔵大菩薩」と書かれた大きな提灯が吊るされる。午前9時20分妙福寺住職の読経が始まる。子供も2~3人集まって来る。終わると参拝者への接待が午後1時まで、お堂の向かい側の榊原幸雄さんの倉庫を借りて行われ、袋詰めの菓子などが振舞われる。当日は約30名の方がお参りされた。

昔は、地蔵祭の後八柱神社の木陰にごさを敷き、うどんを食べたり、又、地蔵祭に合わせ、報恩寺で森組の戦死者慰霊祭を行ったことがあったそうである。

(4) 前の位置

前のお堂の位置は、八柱神社の東の階段の向かい側で、若宮町4丁目にあったが、昭和52年6月に神社が敷地を整理した時、現在地へ移転した。更にその前の位置は、現在地から百メートル程南の、西山組墓地へ曲がる交差点の北西の角にあったそうである。

(5) 明治の記録

棚尾村役場の古文書に森組地蔵祭の記録があり、長く続いていることが分かる。

地蔵尊供養届 棚尾村字森之崎

一、地蔵尊供養会 献燈、福引

右ハ本月十八日供養会報行仕度庫此段奉御届候也

明治二十一年五月十七日

右信徒総代 榊原忠三郎、榊原松之助



1 1 その他の地蔵尊

(1) 中江組地蔵尊

志貴崎町6丁目で志貴崎橋の西北に地蔵堂があり、石造立像の地蔵尊が祀られている。中江組が管理して、以前は地蔵祭を行っていたが、現在は行っていない。今のお堂は、工事用の大型車が破損したので建て替えてもらったという話であった。

(2) 川東の耕作者地蔵尊

西尾市小栗町の矢作川堤防沿いで、矢作川大橋の東南にお堂があり、古くから「耕作者地蔵尊」が祀られていた。これは、矢作川を越えて東の農地は棚尾の耕作者が多く、棚尾橋が出来より前の昔からお地蔵さんがあったそうである。

しかし、西尾市土地改良区に属する、この地区の4地区が、平成21年3月に合併し「平坂南部新田地区」に生まれ変わったのを機会に、地蔵尊を西尾市満全町の康全寺へ移設され、現在は更地になっている。

(3) 菩提庵地蔵尊

源氏町3丁目の名倉家には、浄土宗菩提庵の木造地蔵尊像1体が安置されている。



(4) 個人で祀られている地蔵尊

個人で祀られている地蔵尊も多い。その位置は2ページの地図のとおりである。

どの地蔵尊も丹誠に守られていて、祀ってみえる人の篤い信仰心が伝わって来る。そのため、熱心にお参りされる人をよく見かける。先日もその前を通ったら、若い女性が「お地蔵さんに参ってから帰ろ」と、ごく自然に言って拝んでいる姿を目にした。お地蔵さんが生活に溶け込んでいる姿に、心和むものを感じた。

(5) 今は無くなったが思い出のある地蔵尊

ア 字上屋敷地内

浄土宗専修庵（通称しんどうさん）境内にあった地蔵尊は市内下洲町の地蔵院へ移ったと思われる。

イ 字雨池地内

蜷川大水門の南は現在、河川内は全て水面であるが、以前は民家や農地があり地蔵尊が祀られていた。台風による、堤防補強工事などで不明になったと思われる。

12 あとがき

私たちの身近で長年に亘って祀られている、棚尾の地蔵尊について実態をまとめた。短期間で作成した為、書き落としていることや或いは間違いもあると思われる。この資料をたたき台にして、出来るだけ大勢の人の協力を得て、更に充実したものにしたいと考えているので、皆さんからのご意見、感想などをお待ちしている。

調査員 各地蔵分担

長田豊治、長田知久、石川茂、石川常一、力富敬子、杉浦吉二郎

当日取材

小笠原幸雄、杉浦光雄 まとめ：磯貝国雄

「敬老会」

1 要旨

今年も棚尾地区敬老会が9月17日の敬老の日に小学校で開かれた。80歳以上の方475名がお祝いを受けられ、式の後、保育園児の演技や小学生のバトンと吹奏楽、再青会の銭太鼓、豊青会の舞踊が披露された。

棚尾地区では早くから敬老会が行われていて、101年前の明治44年(1911)に第1回が同じ棚尾小学校で開催されている。小学生が唱歌や朗読で、75歳以上の方65人を祝福している。

2 第1回棚尾地区敬老会

明治44年5月27日に棚尾小学校で開催された。

(1) 招待文

拝啓、来ル27日午前9時ヲ期シ 本村小学校ニ於テ 敬老会開催可仕ニ付御
来会申サレタク御案内申シ上ゲ候也

明治44年5月25日

棚尾村長 石川宗七

校長 野々山巖

(2) 招待された人数

75歳以上 65人

(3) 寄付者

小笠原半兵衛 長崎重治 長崎静治

落雁90箱

長田助次郎

扇60本 袋60

堅木原友太郎

扇40本

女生徒中

銭入れ90

古久根勇蔵

甘酒

石川宗七 生田市郎 生田忠二郎 石川竹次郎

鳥居嘉四郎 長田勝太郎 川口金次郎 永井治郎平

永井紺四郎 名倉半太郎 名倉吉待 永坂奎兵衛

野々山巖 榊原唯一郎 齊藤吾市 齊藤甚六

平岩幸左エ門 杉浦治助 鈴木岩二郎

折り詰 90

(4) 敬老会に於ける演習会順序

回次	種目	題 目	学年	演 者
1	朗読	田植	尋2男	杉浦富一
2	唱歌	春が来た	尋3女	岡田せん外2名
3	談話	猿蟹合戦	尋1男	鈴木公
4	対読	藤と豌豆	尋4女	古久根しづ外1名
5	談話	奈良大仏	尋3男	杉浦太郎
6	唱歌	ハトポッポ	尋1女	榊原のぶ始4名
7	朗読	水兵の母	尋5男	多田良一
8	談話	能見の宿衾と当麻蹴速	尋2女	小林とも
9		ハーモニカ吹奏		市古先生
10	朗読	児島高德	尋6女	齊藤きり
11	唱歌	雲雀	高等	男生
12	おはなし			永井先生
13	唱歌	神武天皇	尋5女	長崎志げ子外1名
14	朗読	田舎の四季	尋4男	鳥居高次郎外7名
15	唱歌	我は海の子	尋6男	石川〇市外5名
16		オルガン、ヴァイオリン合奏		市古、高木先生

3 第2回以降の敬老会

第2回棚尾地区敬老会 大正2年5月27日

棚尾地区敬老会 大正4年5月27日

※ 大正3年の記録は残っていない

4 戦前の記録

寺院事業報告 昭和17年度

(妙福寺)

毎年6月1日を期して三ヶ寺共同主催ノ下ニ敬老会ヲ施シテ老老ノ慰安ヲ図ル

(光輪寺)

公益事業の概要

敬老会 三十有余年前 (光輪寺) 被益者：158人

保育園 設立大正11年 名称棚尾幼稚園 担当者高木真敬 休園中

日曜学校 設立大正4年 名称棚尾日曜学校 担当者高木真敬 休園中

(安専寺)

敬老会 (安専寺) 被益者：153人

託児所 6月下旬～7月上旬 10日間

11月下旬 7日間 担当者：方面委員 被益者：18人

共同炊事並びに隣保事業 上記期間と同じ 被益者：135人 農事実行組合

5 平成24年度の敬老会

(1) 日時

平成24年9月17日(祝日) 敬老の日 午後1時30分～3時30分

(2) 場所

棚尾小学校体育館

(3) 参加者

ア 招待者 80歳以上 474名(最高齢者105歳)

イ 来賓 市長 禰亘田政信

衆議院議員 大西 健介

県会議員 小林 秀央

市議会議員 杉浦 哲也

市議会議員 永坂 直義

市議会議員 長田 知久

南中学校校長 岩間 孝三

棚尾小学校校長 金子てる子

棚尾幼稚園園長 鈴木 悦子

棚尾保育園園長 神谷しづえ

民生・児童委員代表 金原 利文

氏子総代代表 高瀬 彰

再青会会長 石川 茂

棚尾公民館館長 羽柴 節子

ウ 実行委員 正幹事杉浦幸雄始め町内会会長夫妻及び健康推進員(30名)

(4) 次第

開式の言葉、主催者挨拶、来賓挨拶、来賓紹介、祝電披露、閉式の言葉

(5) 余興

ア 柵尾保育園年長児の演技

イ 再青会の銭太鼓

ウ 豊青会の舞踊

エ 柵尾小学校 バトンクラブと吹奏楽クラブの演技と演技